



撮影:えびの高原つつじヶ丘付近

ノカイドウ

世界で霧島山でしか見ることのできないノカイドウ。そのほとんどがえびの高原に自生しています。

えびの高原は標高1200m。山麓と比べると気温が7℃位低く、凍てつく厳しい冬をこえ、春を迎える喜びがいつそう強く感じられます。

霧島に春を告げるのはマンサクの花、オオカメノキやキリシマミズキが咲きはじめると春も本番です。それから例年ゴールデンウィークのころ、ノカイドウが花を開きます。濃いピンク色のつぼみが開くにつれて真っ白の花になります。この愛らしい花を目当てにたくさんの方がえびの高原を訪れます。

ノカイドウは現在380株程度が確認されているだけで、これが世界中にあるノカイドウのすべてです。40年前の調査では約500株確認されていますが、環境の変化やシカの食害により徐々に数を減らしていて、絶滅危惧種になっています。保護のための取組がこなわれていて、ノカイドウは、柵で囲われています。

ノカイドウは豊凶の差が大きく、昨年一昨年と花の少ない年でした。今年はいかがでしょうか。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

ノカイドウ
Malus spontanea

バラ科リンゴ属の落葉低木。霧島山の固有種。
国 RDB 絶滅危惧 IB 類 (EN)、宮崎県 RDB 絶滅危惧 IA 類 (CR-r)